



Asian River Restoration Network

アジア河川・流域再生ネットワーク

Annual Report 2007

年 次 報 告



はじめに



アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN：Asian River Restoration Network）の設立から早や1年が経ちました。会員の皆様をはじめとする多くの方々のご支援のもとARRNの活動を行うことができ、深く感謝申し上げます。ここに、この1年の活動を記録した「年次報告2007（Annual Report 2007）」を作成いたしました。

ARRNは、河川・流域再生に関する知識、技術情報の交換を行うとともに、ネットワークを通じて組織・個人が知識や経験を共有、交換できる機会と場を提供して、参加者相互の知識、技術の向上を図ることを目的にして、日本、韓国、中国の関係機関が協力して設立いたしました。

ARRNは、ホームページ、ニューズレターなどで情報提供、国際フォーラムやワークショップ、国際学会などでの情報発信などの活動を進めてきました。また、最新の話題提供ができるように、様々な媒体から必要な情報を得て、早い段階で皆様にお届けすることを心がけております。本ネットワークによって河川の本来の姿やあり方、河川と都市の関係などについてより多くの情報を収集することによって、アジア地域に適合した河川の再生技術の発展に寄与するものと確信しております。

今後とも、河川・流域再生技術に関する情報共有が広がるよう、ARRNの積極的な活動を進めていきたいと考えております。引き続き皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アジア河川・流域再生ネットワーク会長

玉井 信行

金沢学院大学大学院 教授

東京大学 名誉教授

国際水工学会（IAHR） 会長

目 次

はじめに

目 次

1. アジア河川・再生ネットワーク（ARRN）の概要	1
1) ARRN 設立の背景・経緯	1
2) ARRN の目的	2
3) ARRN の運営体制	3
4) 運営事務局および参加者の役割分担	5
5) ARRN 規約	7
6) ARRN 加入のメリット	9
2. 第1回 ARRN 運営会議（2006 年 11 月 8 日）	10
3. ARRN 設立式典（2006 年 11 月 9 日）	12
4. ARRN の主な活動	14
1) 活動の概要	14
2) 国際フォーラム	15
3) ワークショップ	18
4) ホームページ	20
5) ニュースレター	22
6) ニュースメール	23
7) 河川・流域再生に関するガイドライン構築	24
8) ARRN の広報活動	25
9) 有識者会議 / 事前会議	30
10) その他	32
5. ARRN 会員情報	33

〈参考〉JRRN Newsletter vol.6

〈参考〉JRRN ニュースメール 第50号

1. アジア河川・再生ネットワーク（ARRN）の概要

1) ARRN 設立の背景・経緯

2006 年 3 月、メキシコシティで開催された第 4 回世界水フォーラム内の自然再生に関する日本、中国及び韓国 3 ヶ国による合同分科会の場において、中国、日本、韓国、マレーシア、UNESCO-IHE の各国、機関の関係者のパネルディスカッションを踏まえて以下の提言が成されました。

- It has been realized that river restoration is of vital importance to socio-economic sustainable development in parallel with flood management and water use management.
- It is necessary to recognize that the basin as a basic unit for management, that the river environment is dynamic, and that the environment of the various rivers is maintained by dynamic disturbance.
- It is necessary for the countries in Asian monsoon region to establish the suitable methodology and technology for river restoration, considering dense population, frequent and severe flooding, and abundant rice paddy.
- In Asian monsoon region human-influence to a cultural landscape is harmonized with the ecosystem traditionally. Those landscapes that have been modified by humans over long periods are often also important for nature as well as culture.
- It is important to develop a database and Asian network of projects and knowledge of international experts in river restoration. River restoration is a multi-disciplinary and multi-organizational task that should be supported by river engineers, environmental scientists, ecologists, water managers and the public.
- It is urgent to establish a river restoration guideline suitable for the Asian monsoon region as a reference for countries with similar social and natural conditions.

(Quote from "Session output" on 4th World Water Forum's "River Restoration in Asian Monsoon Region")

以上のような、河川・流域再生の情報交換ネットワーク、データベース及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドラインの作成に向けたアジア諸国連携の必要性の提言を受け、アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN: Asian River Restoration Network）が、2006 年 11 月に日中韓の関係機関をメンバーとして正式に設立されました。



ARRN 設立式典

2) ARR N の目的

河川は元来、治水、利水の対象であるだけでなく、農業、漁業、物質輸送等、人々の生活基盤を支える資源であり、社会生活や生産活動の中心を形成していました。しかし、経済発展は沿川の人口集中をもたらし、流域の経済発展と引き替えに河川が持っていた浄化能力が損なわれ、近年は汚濁の進展、河川環境や文化の損失が課題となっています。

このような背景のもと、欧米諸国では先行的に生態系や浄化能力等の河川が本来持っている能力の再生保全の取り組みが行われています。また、アジアでも失われた河川機能を回復し、河川環境を再生すると共に、河川に新たな価値が見出しつつあります。このような時勢において、類似した気候や地形条件を有するアジア地域を中心に河川・流域再生に関する事例、工法、関連出版物、学識専門者等の情報を交換し、互いにより質の高い環境再生、保全の技術を培うためのオープンな組織が求められています。そこで、『Asian River Restoration Network (ARRN)』を設立し、基本的に参加に条件を設けず多くの方々が参加（情報提供、収集）できるように広く開放的な組織としてより多くの情報を収集し、コミュニティを拡張していき、アジアに適合した河川の再生技術発展に寄与してまいります。

ARRN の目的は、河川・流域再生に関わる多様な分野の情報をスムーズに交換できる仕組みを国際的に共有することにあります。この仕組みを通じて参加者相互での意見交換による課題解決への利用、人的交流・技術交流を推進する等の利用が重要となります。このため、ARRN では国際フォーラムやワークショップを実施するほか、Web 上でアジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生、保全事業に関する情報交換を可能とする仕組みを構築し運営します。また、アジア地域で利用できる河川・流域再生ガイドライン(案)を作成し、参加者相互で利用できるようにすることを目指しながら、河川・水辺に関するセミナー、会議等の開催を通して、先進的な事例や自然再生の情報発信を行ってまいります。

3) ARRN の運営体制

■国内ネットワーク (River Restoration Network)

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのネットワークを「River Restoration Network (以下、RRN)」と総称する。国内ネットワークは各地域内での自由な活動が奨励されます。

■運営会議 (Governing Council)

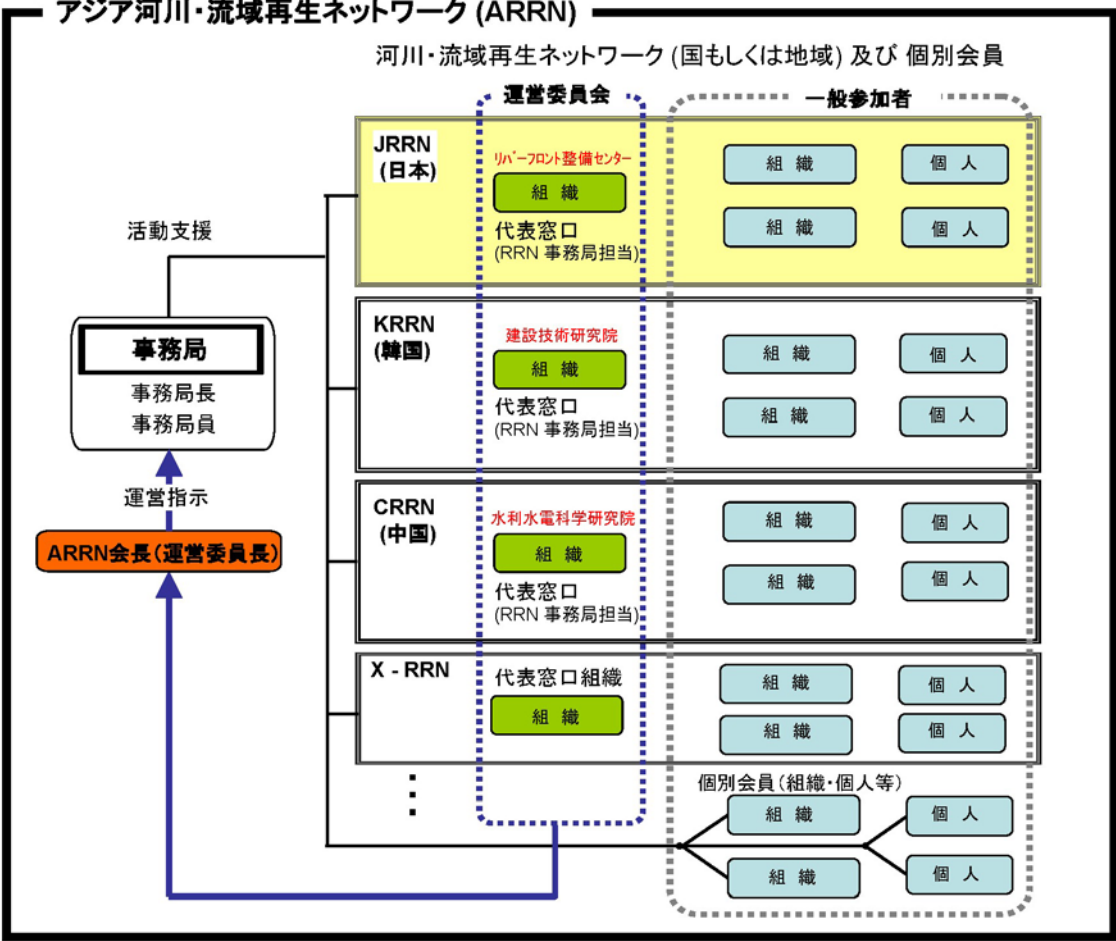
ARRN の運営方針は各国内ネットワークの代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長により総括され、ARRN の年間活動計画、予算計画等の決議を行います。「RRN」の代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Council」が構成されます。

■運営事務局 (Secretariat)

運営会議は、運営会議に決議された「運営事務局」により開催されます。運営事務局は運営会議の他、ARRN の活動を遂行します。

■その他一般参加者 (General Participants)

上記以外に、ARRN の運営に直接携わらずフォーラム等のイベントや Web サイトの活用をする者を「一般参加者」と総称します。一般参加者は、各地域の RRN の定める規約に従い参加登録等を行った者や、ARRN に直接参加を表明した者の総称し、一般参加者は個人、団体を問いません。



ARRN 組織概要図



韓国・ソウル市 (May 20, 2006)



日本・恵庭市 (Sep. 9, 2007)

4) 運営事務局および参加者の役割分担

運営事務局

a. 運営会議の開催

運営事務局は原則として年 1 回、運営会議を開催します。合わせて国際フォーラムを開催することができます。国際フォーラムは運営会議参加団体の共催イベントとして、お互いの最新の河川・流域再生に関する政策、研究等に関し講演を行います。このフォーラムを通じて参加地域、団体、個人相互の情報交換の場とします。

b. 統括 Web サイトの構築・運営

運営事務局は ARRN が運営する統括 Web サイトの更新を行います。

c. ガイドライン(案)の作成窓口

ガイドライン(案)の作成体制については現在検討中です。

d. ニュースレターの配信

運営事務局は収集した情報より定期的にニュースレターを作成し、e-mail にて加入者に配布します。ニュースレターの掲載情報は以下の通りです。

- ・ ARRN 及びそれに属する参加団体等の開催するイベントのお知らせ
- ・ 河川・流域再生に関する技術の情報等の紹介
- ・ その他、河川・流域再生に関連する全ての情報の紹介

各参加者は情報提供について協力頂きます。

e. 参加者リストの管理

運営事務局は、ARRN 参加者及び加盟 RRN (国・地域レベル) のリストを管理します。



第 3 回 国際フォーラム (Nov. 9, 2006)



中国・北京市 (Aug. 28, 2007)



台湾・高雄市 (Jun. 25, 2007)



マレーシア・クアラルンプール市 (Oct. 23, 2007)

一般参加者

a. Web サイトへの情報提供、利活用

参加者はWeb サイトを自由に閲覧することができます。また、他の参加者にとって有用な情報を、Web サイトを通じて積極的に提供できます。

b. 国際フォーラム、ワークショップへの参加

ARRN 運営事務局主導で開催する国際フォーラム、各 RRN 主催によるワークショップに積極的に参加頂きます。

c. ワークショップの独自開催

ワークショップの開催するに当たっては、運営事務局や各 RRN に積極的に協力願います。

d. 専門家の技術アドバイス、調査チーム派遣

専門家の技術的アドバイスを要する際や事例調査団等の派遣に際しては、関係する参加者は積極的に協力を頂きます。

5) ARRN 規約

Asian River Restoration Network 規約

第1条 名称

本国際情報交換ネットワークは「Asian River Restoration Network」（以下 ARRN）と称する。

第2条 目的

ARRN はアジア地域における河川・流域再生に関する知識、技術情報の交換を行うためのネットワークである。その目的は、河川・流域再生にかかわるネットワークを通じて組織・個人が知識や経験を共有、交換できる機会と場を提供し、参加者相互の知識、技術の向上を図ることとする。

第3条 活動の種類

前条の目的を達成するため、河川・流域再生に関して次に掲げる種類の活動を行う。

- ・ 技術支援活動
- ・ 調査研究活動
- ・ 出版活動
- ・ 広報活動

第4条 活動内容

ARRN は第2条に定めた目的達成のため、河川・流域再生に関して次に掲げる活動を行う。

- ・ インターネットを介した Web サイト、e-mail により配信されるニュースレターを通じた情報交換・共有活動
- ・ ワークショップ、フォーラム等を開催し、世界の最新水辺事情や水辺環境整備事例の紹介、収集する場の提供
- ・ 河川・流域再生に関するガイドラインの作成、改訂
- ・ 共同研究の実施および実施に向けた情報提供等のサポート
- ・ 参加者間での講師派遣、専門家との連絡仲介
- ・ 河川・流域再生に関する書籍の翻訳、出版

その他、必要に応じて活動内容を拡張する。

第5条 参加資格

1. ARRN は行政、民間機関、NPO、研究者、個人等の自由な参加を可能とする。
2. 参加者は運営事務局に登録する。

第6条 運営会議

1. 運営会議は規約に基づいて組織体制、活動計画等、運営に関して決定を行う。
2. 運営会議には議長をおき、任期は2年とする。
3. 議長は運営会議により推薦され、決定される。
4. 運営会議では、ARRN 参加者および運営事務局から提案される以下の項目について審議する。
 - ・ 運営会議、運営事務局の体制の決定
 - ・ 規約の施行、修正及び失効に関する決定
 - ・ 毎年の行動計画と行動方針の決定
 - ・ その他参加者からの提案事項

第7条 運営事務局

1. 運営会議の開催運営は、運営事務局によりなされる。
2. 運営事務局は活動計画、その他事項等を運営会議に諮る。
3. 運営事務局には事務局長をおき、任期は2年とする。

第8条 活動資金

運営事務局の活動資金は原則として事務局によって賄われる。ただし、必要な場合は他の参加者に協力をあおぐことができる。

第9条 施行、失効、修正

これらの規約は、2006年11月8日より施行する。これらの規約は運営会議の審議により、適宜修正及び失効される。

注釈： 当規約は、中国水利水電科学研究院、韓国建設技術研究院及び日本の財団法人リバーフロント整備センターの協議に基づき作成されたものである。

6) ARRN 加入のメリット

- a. 国内外の情報の簡易な入手
- b. 国際セミナー、ワークショップ等の開催情報等の入手
- c. 各国資料（基準書、技術指針書、ビデオ映像等）の容易な入手
- d. 事例情報の入手

現地言語に十分な知識のない方でも、ARRN に参加した国々の機関、団体及び個人（以下、『各国の参加者』とする）を通じて各国の情報の入手が可能です。

- e. 国内外の最新技術情報の入手

各国の参加者より提供された河川や水辺に関する現地の政府の記者発表や最新技術等の概要情報を Web サイト等の情報ソースより知ることができます。

- f. 安価な情報発信

Web サイト、ARRN 主催のフォーラムやワークショップを通じて、発信したい情報を安価かつ国際的に発信することが可能です。

- g. 各国の専門家情報の利用並びに、専門家、企業、団体等との連携（人材交流、共同研究等）補助

- h. 国際セミナーワークショップ等の開催サポート

現地言語に十分な知識のない方でも、各国の事務局もしくは参加者を通じて各国の専門家、企業、団体等との連絡が可能となります。また、国外でのワークショップ等の開催を希望される際には各国の参加者に会議場の設営、宿泊先の予約等のサポートを得ることが可能です。

- i. 海外企業、関係者とのビジネスマッチミーティングへの参加

2. 第1回 ARRN 運営会議（2006年11月8日）

2006年11月8日に東京にて第1回 ARRN 運営会議が開催されました。運営会議では、ARRN 規約の承認や会長の選出、またロゴマークやホームページの運営に関して議論が行われ、ARRN の今後の活動計画について出席者の皆様より貴重な意見を多数いただきました。

参加者： 玉井信行（日本）、リャオ・ウェンゲン（中国）、ウ・ヒョソップ（韓国）、キム・チャンワン（韓国）、ヨーモラ・ユッカ（フィンランド）、チョウ・ウェンケオン（マレーシア）、中村圭吾（日本）、ARRN 事務局（砂川、佐合、伊藤、土門、伊藤）



ARRN 運営会議の様子



設立経緯に関する説明



ARRN 運営会議の様子

第1回 ARRN 運営会議 議事次第

日時： 2006年11月8日(水) 15:00 ～ 17:30

場所： 財団法人リバーフロント整備センター会議室

開会 (15:00)

15:00 開会挨拶 5分

議事 (15:05 ～ 17:30)

15:05 ARRN の概要の説明 (RFC) 20分

15:25 ARRN 運営に関する承認等 20分

ARRN 規約の承認

ARRN 運営会議議長の選出・承認

ARRN 運営事務局及び事務局長の選出・承認

15:45 年次活動計画及び今後の活動方針に関する意見交換 60分

16:45 国際フォーラムの事前会議 40分

17:25 質疑、意見交換等 5分

閉会 (17:30)

第1回 ARRN 運営会議 議事録概要

1. 運営事項・規約に関する承認事項

- ・ 規約について大枠で承認され、今後、メールや電話で細部は詰めていく。
- ・ 各国、地域から代表を1名選定し RRN を結成する。運営委員会では各 RRN が1票の議決権を有することとする。
- ・ 事務局運営は運営会議の場で決定し、事務局を担う RRN から事務局長を選定する。

2. 事務局および事務局長、運営会議の議長の選出

- ・ ARRN 事務局を2年間日本(JRRN)が担い、財団法人リバーフロント整備センター(RFC)内に事務局を置く。また RFC 技術普及部佐合部長が事務局長を担う。
- ・ ARRN 議長として玉井信行教授を事務局が推薦し承認された。

3. 今後の活動計画について

- ・ 第5回世界水フォーラム(トルコ)を目標に ARRN の活動計画を定めていく。
- ・ ロゴマーク、ホームページの基本運用方法について承認され、英語を共通言語として情報発信を行っていくことが確認された。
- ・ ガイドラインを今後構築するに当たり、自然再生のみならず、景観や都市再生についても考慮していく。

以上

3. ARRN 設立式典（2006 年 11 月 9 日）

2006 年 11 月 9 日に東京にて ARRN 設立式典が開催され、同時開催された「水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」と合わせ、ARRN 加盟署名国である日本・中国・韓国と、近隣諸国のマレーシア、欧州の ECRR を代表してフィンランドから河川再生事業に携わる 5 カ国の河川関係者が集いました。ARRN 設立記念式典では、今後アジア地域における情報交換を積極的に推進していくために、まずは日本、中国、韓国の 3 カ国が ARRN に加盟して活動を行うことを確認し加盟署名式が行われ、続いて、水や河川に関連する様々な国際ネットワーク活動が紹介されました。



ARRN 概要説明



中国・韓国・日本の署名



署名後の記念撮影



ECRR の概要説明



IFNet の概要説明

■ARRN 設立式典

日 時：2006 年 11 月 9 日（木） 10:30～12:00
 会 場：グランドアーク半蔵門 富士東の間（4F）
 主 催：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
 共 催：中国水利水電科学研究院（IWHR）／韓国建設技術研究院（KICT）
 （財）リバーフロント整備センター（RFC）

10:30～10:40	主催者挨拶	（（財）リバーフロント整備センター）
10:40～10:50	来賓挨拶	（国土交通省河川局）
10:50～11:05	ARRN の趣旨概要と経緯説明	（ARRN 事務局）
11:05～11:15	登録署名式	

リャオ ウェンゲン 中国水利水電科学研究院
 （China River Restoration Network）
 ウー ヒョソップ 韓国建設技術研究院
 （Korea River Restoration Network）
 竹村 公太郎 （財）リバーフロント整備センター
 （Japan River Restoration Network）

11:15～12:00 水に関する国際ネットワーク紹介

ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今
 ヨーモラ ユッカ（フィンランド環境研究所）
 International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields
 の活動概要
 鈴木 篤（農林水産省 農村振興局）
 International Flood Network の概要
 解良 一夫（社団法人国際建設技術協会）
 Network of Asian River Basin Organizations の活動概要
 進藤 裕之（アジア河川流域機関ネットワーク NARBO）
 Asia-Pacific Water Forum の概要
 横田 妙子（日本水フォーラム）

4. ARRN の主な活動

1) 活動の概要

年	月日	活動内容
2006	Nov. 8	第1回 ARRN 運営会議（東京）
	Nov. 9	第3回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（東京）
	Dec. 18	JRRN ニュースメール 配信開始
	Dec. 20	JRRN Newsletter 第1号
2007	Jan. 28	JRRN Newsletter 第2号
	Feb. 6	第1回 国際ネットワークに関するワーキング（東京）
	Apr. 24	韓国異常気象調査研究視察団 現地視察支援
	May 8	ARRN 事務局と K-water との河川再生に関わる意見交換
	May 17	ARRN の広報活動（韓国・平昌市） Korea Water Resource Association 2007 Annual Conference
	Jun. 1	JRRN Newsletter 第3号
	Jun. 26	ARRN の広報活動（台湾・台中市・逢甲大学） 2007 Mini-forum on river restoration techniques
	Jun. 27	ARRN の広報活動（台湾・台北市） The 4 th Civil Engineering Conference in the Asian Region
	Jul. 24	国際ネットワークに関する座談会（東京）
	Aug. 1	JRRN ホームページのリニューアル
	Aug. 23	ARRN 事務局と韓国関係者(KICT)の事前打合せ（東京）
	Aug. 27	ARRN 事務局と中国関係者(IWHR)の事前打合せ（北京）
	Aug. 27-30	中国における ARRN の広報活動（北京市水利規則設計研究院・武漢市水務局・上海市蘇州河改良事業団）
	Sep. 3	JRRN パンフレットの配布開始
	Sep. 4	JRRN Newsletter 第4号
	Sep. 20	ARRN 事務局と K-water との河川再生に関わる意見交換
	Sep. 25	ARRN の広報活動（マレーシア・クアラルンプール） マレーシア灌漑排水局長への ARRN 概要説明と意見交換
	Sep. 26	アジア太平洋水フォーラム テーマ C 会議参加（タイ・バンコク市）
	Oct. 7	JRRN Newsletter 第5号
	Oct. 11	講演会「川からの都市再生 ～台湾・高雄市の事例 愛河（Love River）」（東京）
	Oct. 23	ARRN の広報活動（マレーシア・クアラルンプール） The 3 rd Southeast Asia Water Forum, Regional workshop
	Nov. 1	JRRN Newsletter 第6号
	Nov. 6	韓国 JoongBu 大学 現地視察支援
	Nov. 8	JRRN ニュースメール 50 号配信
	Nov. 14	ARRN の広報活動（インド・ニューデリー） WFE0-General Assembly and World Congress
	Nov. 15	ARRN の広報活動（タイ・バンコク） タイ王立灌漑排水局水資源局への ARRN 概要説明と意見交換
	Nov. 30	第4回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（東京）
	Dec. 1	第2回 ARRN 運営会議（東京）

2) 国際フォーラム

◎第3回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（2006年11月9日：東京）

2006年11月9日、ARRNの設立式典とあわせ、「第3回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」が東京にて開催されました。

本フォーラムの総合討論では、招聘各国の河川再生の事例紹介とともに、今後のARRNの活動内容を定めるため、河川再生に関わる各国のニーズ、互いの情報交換と交流のあり方、共有すべき情報の内容とその手段、共通ガイドラインなどに関する協議が行われました。



ARRN
Asian River
Restoration Network

水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム
～ Asian River Restoration Network 設立式典 ～

International Forum on Waterfront and Watershed Restoration (November 2006)



蘇州河:CHINA



清溪川:KOREA



木曾川:JAPAN

日 時	: 2006年11月9日(木) 10:30-16:00
会 場	: グランドアーク半蔵門 富士東の間(4F)
主 催	: アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
共 催	: 中国水利水電科学研究院 (IWHR) 韓国建設技術研究院 (KICT) (財)リバーフロント整備センター (RFC)
後 援	: 国土交通省 (MLIT)、日本水フォーラム (JWF)、アジア河川流域機関ネットワーク (NARBO)、 (社)国際建設技術協会 (IDI)、(社)建設コンサルタンツ協会 (JCCA)、応用生態工学会 (ECES)
Date/Time	: November 9th 2006, Thursday 10:30-16:00
Venue	: The Grand Arc Hanzomon FUJI HIGASHI (4F)
Organizer	: Asian River Restoration Network (ARRN)
Co-Organizers	: China Institute of Water Resources and Hydropower Research (IWHR) Korea Institute of Construction Technology (KICT) Foundation for Riverfront Improvement and Restoration (RFC)
Supporters	: Ministry of Land, Infrastructure and Transport (MLIT) Japan Water Forum (JWF) Network of Asian River Basin Organizations (NARBO) Infrastructure Development Institute (IDI) Japan Civil engineering Consultants Association (JCCA) Ecology and Civil Engineering Society (ECES)

国際フォーラム当日の配布資料表紙

水辺・流域再生に関わる国際フォーラム ～ Asian River Restoration Network 設立式典 ～

開催にあたって

現在、世界的に自然再生に関する活動や研究が実施されています。今後、より効率的かつ効果的な活動等を実施するためには、各国内にとどまらず、国内外との情報の交換で知識の共有を図ることが有効であると考えられます。このようなネットワークの必要性は 2006 年 3 月に開催された世界水フォーラムにおいても中国、韓国、日本、マレーシア等の国々の代表者により議論が展開されてきました。

今回の会議は、第4回世界水フォーラム「自然再生分科会」での提言を踏まえて、中国、韓国、日本の3カ国を軸にしたアジア河川・流域再生情報ネットワーク「Asian River Restoration Network (ARRN)」の正式な設立を目的として開催するものです。フォーラムでは、ARRN の正式設立を確認するとともに、その意義、有用性、活動内容等、組織概要など、広く ARRN の活動についてご紹介します。

■開会

10:30～10:40
10:40～10:50

主催者挨拶 竹村 公太郎 (財)リバーフロント整備センター理事長
来賓挨拶 国土交通省河川局

■ARRN 設立式

10:50～11:05
11:05～11:15

ARRN の趣旨概要と経緯説明 (財)リバーフロント整備センター (ARRN 事務局)
登録署名式

リャオ ウェンゲン 中国水利水電科学研究院 (China River Restoration Network)
ウー ヒョソップ 韓国建設技術研究院 (Korea River Restoration Network)
竹村 公太郎 (財)リバーフロント整備センター (Japan River Restoration Network)

11:15～12:00

水に関する国際ネットワーク紹介
ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今
ヨーモラ ユッカ フィンランド環境研究所
International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields の活動概要
鈴木 篤 農林水産省 農村振興局
International Flood Network の概要 解良 一夫 (社)国際建設技術協会
Network of Asian River Basin Organizations の活動概要
進藤 裕之 アジア河川流域機関ネットワーク
Asia-Pacific Water Forum の概要 横田 妙子 日本水フォーラム

12:00～13:00

休憩

■講演兼総合討論

13:00～16:00

総合討論「アジア河川再生の今後の展開」
座 長：玉井信行 金沢大学教授
パネリスト：中国、韓国、日本、マレーシア、ヨーロッパ河川再生センター (ECRR)
中国の河川再生について リャオ ウェンゲン 中国水利水電科学研究院水環境研究所
韓国の河川再生について キム チャンワン 韓国建設技術研究院 水資源研究部
日本の河川再生について 原田 昌直 国土交通省河川局河川環境課
中村 圭吾 (独)土木研究所 水環境研究グループ
マレーシアの河川再生について チョウ ウェン ケオン マレーシア灌漑排水局河川部
(各 30 分)

16:00

閉会

ARRN 設立式典・国際フォーラムのプログラム



開会挨拶（竹村 RFC 理事長）



パネルディスカッション



パネルディスカッション



レセプション

3) ワークショップ

◎講演会「川からの都市再生 ～台湾・高雄市の事例 愛河 (Love River)」
(2007 年 10 月 11 日：東京)

2007 年 10 月 11 日 (木)、JRRN と日本大学理工学部との共催で、講演会「川からの都市再生 ～台湾・高雄市の事例 愛河 (Love River)」が東京で開催されました。

○日 時：平成 19 年 10 月 11 日 (木) 10:00～12:00

○講演内容：

陳繼志 (元・台湾政府経済部副署長) 「愛河再生の取り組み～展望と実践～」

呉宏謀 (高雄市政府工務局長) 「高雄市における川を通じた都市文化の再生」

○会 場：(財) リバーフロント整備センター

日本大学理工学部 / (財) リバーフロント整備センター / 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 共 催

講演会 川からの都市再生
～ 台湾・高雄市の事例 ～



愛河 (Love River)

日 時	: 2007 年 10 月 11 日 (木) 10:00 - 12:00
会 場	: (財) リバーフロント整備センター会議室
共 催	: 日本大学理工学部
	: (財) リバーフロント整備センター (RFC)
	: 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
Date/Time	: October 11th 2007, Thursday 10:00 - 12:00
Venue	: Foundation for Riverfront Improvement and Restoration
Co-Organizers	: College of Science and Technology, Nihon University
	: Foundation for Riverfront Improvement and Restoration (RFC)
	: Japan River Restoration Network (JRRN)

講演会当日の配布資料表紙

講演では、約 30 年以上に渡り高雄市の水環境改善事業に関してこられた陳繼志氏より、現在の愛河が再生されるまでの歴史と具体的な事業内容について詳しい説明が行われました。続いて、高雄市工務局長である呉宏謀氏より、愛河を軸とした高雄市発展の歴史、また市民とともに歩む高雄市の街づくりに関する話題が提供されました。

今回の交流をきっかけに、ARRN/JRRN として今後も高雄市関係者と連絡を取りあいながら多くの貴重な情報を交換し、河川再生の生きた情報を蓄積して参ります。



開会挨拶(竹村 RFC 理事長)



陳氏 講演風景

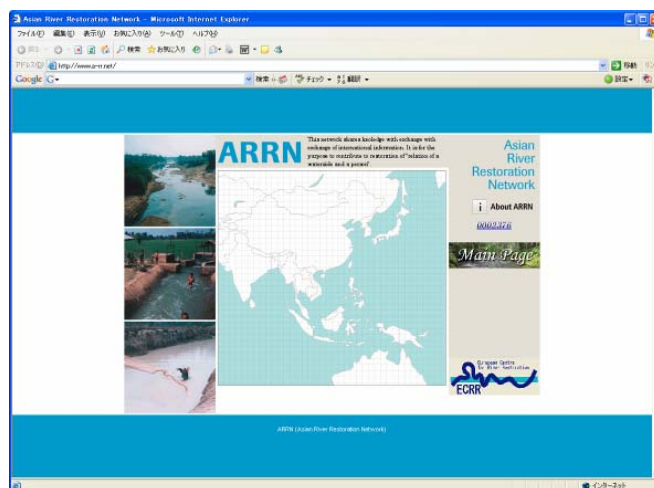


陳氏・呉氏 質疑応答

4) ホームページ

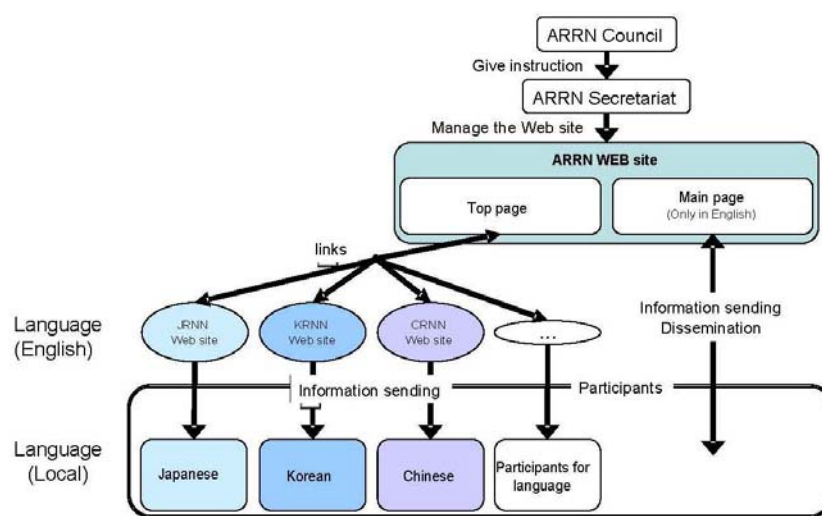
◎ARRN ホームページ

ホームページは、ARRN メンバー間で河川再生に関わる様々な情報を交換し、また共有する上で有用な手段の一つです。



ARRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/>)

現在、ARRN ホームページの試行版を公開中です。ホームページの基本構成は以下の図に示す通りであり、各 RRN のホームページを充実させ、かつ現地の言語と英語の両方で整備することが、早急な課題になっています。



ARRN ホームページの基本構造

◎JRRN ホームページ

JRRN では、川や水辺の再生に関る人々が、お互いに河川や流域の再生に関する情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、その手段の一つとしてホームページの充実化に取り組んでいます。本ホームページは、河川や水環境の再生に関する情報の循環や人の交流を目的とし、市民団体・行政関係者・民間実務者・研究者などを対象に、河川再生の国内外事例、地域活動、専門技術、ニュース、書籍、論文、遊び等々の様々な情報を掲載しています。

JRRN 日本河川・流域再生ネットワーク

日本語 | English

更新履歴 | サイトマップ | お問い合わせ

トップページ

JRRN 紹介

最近の話題・ニュース

イベント情報

情報交換・交流

日本と世界の水辺

水辺の活動

水辺を楽しむ

水辺を見る・知る・学ぶ

書籍・教材・論文

人・組織のつながり

新着情報

2007.8.17 (最近の話題・ニュース)
 ■「河川・流域に関する最新記事(2007年8月14日～8月16日)」を掲載しました。

2007.8.17 (水辺を見る・知る・学ぶ)
 ■「水辺の博物館情報(北陸編)」を8件追加しました。

2007.8.14 (最近の話題・ニュース)
 ■「河川・流域に関する最新記事(2007年8月10日～8月13日)」を掲載しました。

2007.8.14 (水辺を見る・知る・学ぶ)
 ■「水辺の博物館情報(北海道編)」を15件追加しました。

2007.8.13 (最近の話題・ニュース)
 ■「河川・流域に関する最新記事(2007年8月7日～8月9日)」を掲載しました。

2007.8.13 (イベント情報)
 ■「第5回日韓河川応用生態セミナー(2007.8.24-26)」を追加しました。

2007.8.7 (最近の話題・ニュース)
 ■「河川・流域に関する最新記事(2007年7月31日～8月6日)」を掲載しました。

2007.8.7 (最近の話題・ニュース)
 ■「新着図書紹介「川の技術のフロント(2007.8)」」を掲載しました。

ようこそ JRRN へ!

JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク)は、国際的に河川再生に関する交流を行うネットワーク(Asian River Restoration Network: ARRN)の日本窓口です。河川・流域再生に関する知識、技術、経験等を組織・個人問わず、交換し共有できる機会と場の提供を目的とした活動を行います。

Asian River Restoration Network (ARRN)

日本: Japan RRN (団体登録者, 個人登録者)

大韓民国: Korea RRN (団体登録者, 個人登録者)

中華人民共和国: China RRN (団体登録者, 個人登録者)

その他の国や地域: etc. (団体登録者, 個人登録者)

ARRN アジア河川・流域再生情報ネットワーク

アジア諸国における河川再生に関する情報交換を目的とした組織として、2006年11月ARRNが設立されました。日本におけるARRNの活動は、日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)が担います。

Go to ARRN website

お問い合わせ先
 財団法人リバーフロント整備センター
 技術普及部
 東京都千代田区一番町8 番地
 一番町FSビル3 階
 電話 03-3265-7121
 Fax 03-3265-7456
 e-mail info@arr-net

川や水辺の写真、活動情報を募集中!

情報交換・交流サイト
 川や水辺の再生事例、水辺における水地域の取り組み、美しい水辺の風景写真や美しい川の整備事例、地元のニュースや新聞記事等、河川・流域再生に関わる皆様からの貴重な情報をご提供下さい。

続きはコチラ

JRRN 会員登録中!

JRRNでは現在会員登録を募集しています。会員登録に関する詳しい情報はこちらからご覧下さい。

会員登録ページ

日本と世界の水辺

野川(東京都)

水辺の紹介ページへ

出版図書紹介

「多自然川づくりポイントブック」リバーフロント整備センター 2007年4月

書籍・教材・論文

運営方針・個人情報保護方針

©copyright2007: Japan River Restoration Network all rights reserved.

JRRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/jp/>)

5) ニュースレター

◎JRRN ニュースレター

日本語による JRRN ニュースレターを月一回の頻度で配信しており、JRRN 会員と JRRN の活動を共有する上で有効な手段となっています。すべてのバックナンバーはホームページよりダウンロード可能であり、詳細は以下の URL をご参照下さい。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/>



JRRN ニュースレター (第1号)



JRRN ニュースレター (第6号)

◎ARRN ニュースレター

ARRN 設立2年目以降は、ARRN ニュースレターの配信を予定しております。

配信先は、ARRN のホームページ、もしくは各 RRN のホームページを通じて登録していただいた email アドレス宛となります。

ARRN 会員また各 RRN のメンバーの方々により投稿頂いた記事は、ARRN 事務局が取りまとめる役目を担い、ニュースレターへ掲載していきます。なお、ホームページと同様、言語は英語とします。ARRN ニュースレターの発行まで、もうしばらくお待ち下さい。

6) ニュースメール

◎JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、週 1 回～週 2 回の頻度で、JRRN 会員向けに発行されています。主なコンテンツは、国内外における河川環境に関連するトピック、ニュース、また JRRN 会員からの情報や、JRRN 事務局からのお知らせなどで構成されています。

ニュースメールは、JRRN 会員間で JRRN の活動を把握する上で、また最新の河川環境に関する状況を理解する上で役立っており、すべてのバックナンバーはホームページで見ることが出来ます。詳しくは以下の URL をご参照下さい。

バックナンバーURL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/>

Subject: [Jrrn-mbr] 【JRRN ニュースメール】第 50 号

河川・流域に関する最新記事 (2007 年 11 月 6 日～8 日)
発信: JRRN 事務局

当ニュースメールは、複数のメールアドレスを配信先に登録可能です。
ご希望がございましたら『info@a-rr.net』までご連絡ください。
また、皆様のこんなニュース報道を集めて欲しい、こんな情報を発信して欲しい等の要望も随時受け付けております。
ご要望がございましたら、『info@a-rr.net』までご連絡下さい。

■事務局からのお知らせ■

●第 4 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム開催のお知らせ (2007. 11. 30)
Asian River Restoration Network (ARRN) 主催「第 4 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 街づくりと河川の保全・再生」が 2007 年 11 月 30 日に全国都市会館 (東京) にて開催されます。プログラムの詳細や参加申込方法は以下をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。
詳しくはこちらから→<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/309.html>

●「JRRN Newsletter No.6 (2007 年 11 月)」が発行されました。
JRRN Newsletter の第六号では、先月開催しました JRRN 共催イベント「川からの都市再生 台湾・高雄市 愛河」の結果報告や、マレーシアの河川事情に関する寄稿記事などが紹介されています。
詳しくはこちらから→<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/323.html>

●「水辺のミュージアム」が発行
JRRN の事務局を務める財団法人リバーフロント整備センターより、「水辺」にかかわる

JRRN ニュースメール (第 50 号 2007 年 11 月 8 日発行)

◎ARRN ニュースメール

ARRN ニュースメールは現在のところ発行されておりませんが、ニュースレター同様に、ARRN 設立 2 年目以降から配信の予定です。現在、ARRN ニュースメールの発行に向け、ARRN 事務局ではその内容や頻度について検討を行っていますので、もうしばらくお待ち下さい。

7) 河川・流域再生に関するガイドライン構築

第4回世界水フォーラムの自然再生セッションにおいて国際ネットワークの必要性和ガイドライン(案)を作成し自然再生技術の向上を図る必要性が提言されました。そこで、アジア地域の河川・流域再生を目的としたガイドラインを作成することをARRNの重要な役割の一つと位置づけ、河川再生のガイドライン(案)の作成を行っています。

なお、流域も視野に入れた河川再生のガイドラインを作成する事が、将来的なアジア地域の河川・流域の再生に対して有効であると考えられることから、以下に示す対象者、内容を基本としたガイドライン構築を検討しています。

■対象者：アジア諸国の河川・流域再生に携わる者

■内容：第3回世界水フォーラム(2002年3月)の『自然再生分科会』において作成されたガイドライン(案)をベースに事例紹介等で内容を拡張する。英語で作成し、その後必要に応じて翻訳する。

■作成体制：今後、関係機関で協議して決定するが、日本、中国及び韓国の関係機関が順番に編集を行った後、最後に運営会議等で内容を照査する予定。

初年度は、ガイドライン構築の準備段階として、河川再生に関わる既存のガイドライン類(約70種類)の収集を行いました。ARRN事務局では、これら既存ガイドライン類にwebsiteを通じてアクセスできる環境を現在整えており、2年目以降はガイドライン構築に向けた議論を行っていきます。

8) ARRN の広報活動

ARRN の活動を広くアジアに紹介し、会員の増加を図ることを目的として、河川に関する国際会議や学会活動、また関連組織との意見交換を通じ ARRN の PR 活動を実施しています。

◎ARRN 事務局と K-Water（韓国水資源公社）との河川再生に関わる意見交換
 （2007 年 5 月 8 日 / 2007 年 9 月 20 日 東京）

2007 年 5 月 8 日に韓国水資源公社の技術者の方々が来日し、ARRN 事務局が置かれる財団法人リバーフロント整備センター内にて河川再生に関わる意見交換会を行いました。日本における河川再生の事例紹介に加え、ARRN の活動概要も説明し、有意義な意見・情報交換の場となりました。

◎Korea Water Resources Association 2007 Annual Conference
 （2007 年 5 月 17 日 韓国・平昌市）



年次総会の様子

2007 年 5 月 17 日に韓国・平昌市において「2007 韓国水文水資源学会年次総会」が開催され、韓国のみならず、日本、中国、ニュージーランドからも専門分野の研究者が多数参加しました。この会議の場で河川再生に関する国際ネットワークである ARRN の紹介も行いました。



良才川での環境教育活動

また、ソウル近郊の河川再生現場の視察も行い、ソウル市中心部を流れる清溪川（チョンゲチョン）や、韓国で最初の河川再生事業である良才川（ヤンジェチョン）などにおける市民活動風景を見学しました。

◎2007 Mini-forum on International experience sharing on the applications of river restoration techniques (2007年6月26日 台湾・台中市 逢甲大学)

2007年6月26日に台湾・台中市の逢甲大学で「河川再生技術の国際交流ミニフォーラム」(逢甲大学防災研究センター主催)が開催され、台湾、韓国、日本の河川技術者による各国の河川再生の近況報告が行われました。この会議の場で、ARRN事務局より「河川再生に関する国際ネットワークの構築について」というタイトルで講演を行い、ARRNのPR活動を行いました。



講演者記念撮影

発表タイトル	発表者
韓国における河川再生の現状と未来展望	Dr. Hyoseop Woo 韓国建設技術研究院副院長
日本における河川再生と水環境改善の現状	伊藤一正 国土文化研究所
河川再生に関する国際ネットワークの構築について (ARRN)	中谷明彦 RFC研究4部
台湾における河川再生の現状と未来展望	Dr. Chen Hung Kwai 水利署水利試験所所長



ARRN の紹介の様子

◎The 4th Civil Engineering Conference in the Asian Region
(2007年6月27日 台湾・台北市)



ARRN の紹介の様子

2007年7月下旬に台湾・台北市で開催された「第4回アジア土木技術国際会議」のテクニカルセッション「Ecology, Environment and Engineering」において、ARRNが進めている河川再生に関する国際ネットワークの取り組みについて講演を行いました。

◎北京市水利規則設計研究院・武漢市水務局・上海市蘇州河改良事業団との会議

(2007 年 8 月 27 日～30 日 中国・北京市、武漢市、上海市)

中国での河川再生事業の動向を知るとともに、ARRN の P R 活動を目的として、北京市で河川再生事業を担当する「北京市水利規則設計研究院」、同じく長江沿いに発展した武漢市の「武漢市水務局」、更に上海市で蘇州河の河川再生事業を担当する「上海市蘇州河改良事業団」を訪問し、いずれの組織においても ARRN の活動に対し理解を得ることができました。



武漢市水務局



北京市水利規則設計研究院



上海市蘇州河改良事業団

◎ARRN 事務局とマレーシア灌漑排水局長との ARRN 概要説明と意見交換

(2007 年 9 月 25 日 マレーシア・クアラルンプール)

2007 年 9 月 25 日、マレーシア灌漑排水局ケイズル局長との意見交換会を行い、ARRN 活動の報告や今後の予定をご説明した上で、今後どのような形でマレーシアとして ARRN 活動に参加できるかの協議を行いました。

◎アジア太平洋水フォーラム テーマ C 会議参加 (2007 年 9 月 26 日 タイ・バンコク)

2007 年 9 月 26 日にタイ・バンコクでアジア太平洋水サミット (2007 年 12 月大分にて開催) のテーマ C 準備会合が開催され、ARRN 事務局メンバーも専門家として参加し、河川再生や都市の再生、また環境流量に関する意見交換と審議を行いました。

◎The 3rd Southeast Asia Water Forum, Regional workshop
(2007 年 10 月 23 日 マレーシア・クアラルンプール)



分科会での ARRN 活動紹介

2007 年 10 月 22 日（月）～27 日（土）にかけてマレーシア国クアラルンプールを会場に第 3 回東南アジア水フォーラムが開催され、河川環境のモニタリングに関する専門分科会において ARRN の活動を紹介しました。会議を通じ、アジアにおける情報（優れた事例、失敗事例、技術、科学、人材等）共有の必要性を再確認すると共に、ARRN に対する期待も会場から述べられました。

◎世界工学会議 WFE0-General Assembly and World Congress
(2007 年 11 月 14 日 インド・ニューデリー)

2007 年 11 月 11 日（日）～16 日（金）にかけてインド・ニューデリーを会場に世界工学会年次講演会（WFE0 World Congress）が開催され、Quality of Urban life に関する専門分科会において ARRN の活動を紹介しました。



開会式の様子

◎ARRN 事務局とタイ王立灌漑排水局水資源局との ARRN 概要説明と意見交換
(2007 年 11 月 15 日 タイ・バンコク)

2007 年 11 月 15 日（木）、タイ王立灌漑排水局水資源局水資源計画課スラポール課長と ARRN 事務局との ARRN 活動と国際フォーラムに関する打合せを行い、ARRN の取り組みの紹介と共に、タイ国における河川環境再生の最新事情に関する意見交換を行いました。

◎JRRN パンフレット

JRRN では、河川に関するイベント会場にてパンフレットを配布しながら、日本国内における JRRN 活動の PR も行っています。

JRRNとは？

設立の目的・背景

河川はもとより、治水と利水の両方のみではなく、農業や漁業、また観光の振興、人々の生活環境を支える資源の一つとして利用され、人々は河川と水辺を中心に社会生活や生活活動を支えてきた。しかし、流域の経済発展と引き換えに河川の汚染、干拓、河川改修や治水の強化を招き、新たな社会問題を生み出しました。

こうした中、世界各地で河川・水辺の魅力を再発見するための様々な再生活動が実施された。これらは水辺の「アメニティ」創出、市民参加の促進、自然環境の再生等、多岐に達しています。これらの取組が、流域の再生に向けた、様々な事例、経験や教訓、技術、関連施設等、様々な情報を多くの人々と交流できるような、開かれた組織が求められています。

このため、2006年11月に「アジア河川・流域再生ネットワーク (Asian River Restoration Network: ARRN)」が設立されました。「日本河川・流域再生ネットワーク (Japan River Restoration Network: JRRN)」は、このARRNの日本地域の窓口として、国内外の河川・流域再生活動の交流と人の交流を目的とした活動を行います。

設立の経緯

2002年3月の第3回世界水フォーラム分科会において、アジアの水辺再生に関する流域ネットワークの必要性が認識されました。更に2006年3月の第4回世界水フォーラム (メキシコ) では、日本・中国・韓国による合同分科会の中で、アジア地域における河川・流域再生の経験交流ネットワークの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドラインの作成の必要性が認識されました。

これらを受けて2006年11月に「アジア河川・流域再生ネットワーク (Asian River Restoration Network: ARRN)」が日本・韓国・中国・タイ・ベトナムの5国で設立されました。同時に、その国内組織として「日本河川・流域再生ネットワーク (Japan River Restoration Network: JRRN)」が設立されました。

活動目標

JRRNは、国内外の河川・流域再生に関わるあらゆる情報を提供しながら、河川再生に関するネットワークを形成し、その中で有益な情報の提供を生み出し、各地域に特化した河川の再生技術の発展に寄与することを旨とします。更に、国内外のイベントの開催を通じて、水辺の再生の魅力を伝えるとともに、水辺の再生を推進できる社会をつくり、次世代に豊かな水環境を引き継ぐことに貢献することを目標とし、以下の6つのビジョンを掲げ活動していきます。

6つのビジョン

- ネットワークの拡大
- 情報の提供
- コミュニティの構築
- イベント企画・開催
- アジアの国々との連携
- 信頼ある組織の確立

JRRNの活動内容

活動概要

ARRNは、河川・流域の再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催、現地視察の企画等を行います。また、関連情報をウェブサイトやニュースレター等に発信し、自然環境や気候状況の類似した地域間の情報共有を推進します。さらに、ARRNが進めるアジア地域の河川再生ガイドラインの構築を支援するため、日本国内の河川・流域再生に関するガイドラインの体系整理に取り組んでいます。

主な活動

webサイトを通じた情報発信・交流

国内外の河川・流域再生に関するウェブサイトとして、全国の河川再生事例の紹介、水辺の再生、市民参加などの水辺再生の活動内容、河川再生に関する書籍、川の雑誌、人と組織のつながりなどを紹介しています。最新の河川再生に関する情報は、webサイトを通じて河川再生に関する情報の交換、人の交流を目指します。

国際フォーラムの開催

アジアにおける河川・流域再生の経験交流及び人の交流を目的として、年一回、アジアや欧米から講師を招き国際フォーラムを開催しています。

ニュースメール・ニュースレター配信

全国の河川再生、水環境改善に関するニュースを週一回・二回を目安にメールマガジンとして配信しています。また、JRRNの活動内容や水辺再生に関する最新トピックなどを中心に、ニュースレターを毎月発行しています。

河川再生ガイドライン構築

アジア・オセアニア地域における河川再生の考え方、技術基準の構築を目指し、各国の河川再生に関するガイドラインの構築・分析を行っています。

日本河川・流域再生ネットワーク

Japan River Restoration Network

JRRN

Japan River Restoration Network

会員募集

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) では会員を募集しています。JRRNへの参加は、個人、団体を問わず無料です。行政機関、市民団体、NPO、民間企業、大学、研究者、個人等、所属団体や職能を問わず、積極的に河川再生の発展に貢献するすべての方々に参加を歓迎いたします。

年会費：無料

会員の権利

- ニュースメールによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- 会費に応じた国内外の河川再生事例の視察旅行や研修旅行の参加が受けられます。
- JRRNを通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。

会員登録方法：

JRRNのホームページ (<http://www.a-rr.net/jp/>) より会員登録が可能です。

もしくは、下記の用紙にご記入の上、JRRN事務局まで郵送もしくは送付でお申し込み下さい。

JRRN 日本河川・流域再生ネットワーク 会員登録申込書

JRRNに入会申し込みいたします。 FAX: 03-3265-7456

(1) メンバー分類 ☐ 個人 ☐ 組織

(2) 氏名 ふりがな 姓 姓を登録される場合は住所登録または部署名を記載してください。

(3) 所属 (会社名、所属部、所属課)

(4) 連絡先 ☐ 自宅 ☐ 会社 (※) へで登録する連絡先の住所を自宅もしくは会社住所に記入してください。

(5) 住所 〒

(7) 電話 (8) FAX

(9) メールアドレス

(10) 専門分野

※ 個人情報を取り扱うに限り、事務局が関係機関に提供している情報については、本会、ARRN、JRRNが共有情報であり、第三者への提供も利用もする事柄に限定して提供させていただきます。そのほかの用途では使用いたしません。

お気軽にお問い合わせください

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター (RFI) 技術普及部 内

東京都千代田区一橋町5番地 一橋町ビル

TEL: 03-3265-7121 FAX: 03-3265-7456

E-mail: info@jrrn.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

http://www.a-rr.net/jp/

日本における「アジア河川・流域再生ネットワーク (Asian River Restoration Network: ARRN)」の活動は、「日本河川・流域再生ネットワーク (Japan River Restoration Network: JRRN)」が担っています。

URL: <http://www.a-rr.net/>

9) 有識者会議 / 事前会議

ARRN 及び各 RRN の円滑な活動を行うことを目的に、日本国内の有識者による意見交換会を開催しました。また、第二回 ARRN 運営会議や次回の国際フォーラムの事前準備会合として、ARRN の各国窓口を務める KICT 及び IWHR と意見交換会を実施しました。

◎第1回 国際ネットワークに関するワーキング（2007年2月6日 東京）

今後の ARRN 及び JRRN の運営方針に対し、有識者の方々からご意見を頂くことを目的として、「第1回 水辺環境に関する情報ネットワークワーキング」を開催し、研究機関、市民団体、民間企業など様々な立場の代表者から有意義な意見を頂きました。



ワーキングの様子

参加者： 中村圭吾（（独）土木研究所水環境研究グループ）、中村哲巳（（社）建設コンサルタンツ協会）、池田満之（旭川流域ネットワーク世話人）、ARRN 事務局関係者（（財）リバーフロント整備センター）

◎国際ネットワークに関する座談会（2007年7月24日 東京）



座談会の様子

ARRN の事務局を務めるリバーフロント整備センターの国際活動の歴史を振り返りつつ、今後期待される河川環境に関わる国際ネットワークの取り組みに関し、研究所、大学、市民団体、民間の方々から様々なご意見を頂きました。

参加者： 玉井信行（金沢学院大学大学院）、吉川勝秀（日本大学理工学部）、白川直樹（筑波大学システム情報工学研究科）、清野聡子（東京大学大学院総合文化研究科）、中村圭吾（（独）土木研究所水環境研究グループ）、中村哲巳（（社）建設コンサルタンツ協会）、池田満之（旭川流域ネットワーク世話人）、竹村公太郎（（財）リバーフロント整備センター）、ARRN 事務局関係者（（財）リバーフロント整備センター）

◎ARRN 事務局と 韓国関係者(KICT)の事前打合せ (2007 年 8 月 23 日 東京)

2007 年 8 月 23 日に、ARRN 事務局を務める RFC（リバーフロント整備センター）と ARRN 韓国側窓口機関である KICT（韓国建設技術研究院）との間で、ARRN 運営面に関する事前調整会議を行いました。次回 ARRN 国際フォーラム及び日中韓 ARRN 運営会議について協議し、また韓国内における河川再生のネットワークを拡大していく上での関連組織・団体などの情報交換を行いました。

◎ARRN 事務局と 中国関係者(IWHR)の事前打合せ (2007 年 8 月 27 日 中国・北京市)

2007 年 8 月 27 日に、ARRN 事務局の RFC（リバーフロント整備センター）と ARRN 中国側窓口機関「中国水利水電科学研究院」との間に、ARRN 運営面に関する事前調整会議を行いました。会議には中国水利水電科学研究院の水環境研究に関わる代表者の方々が多く参加し、今後のネットワークへの期待などについて意見交換を行いました。



IWHR 水環境研究所リャオ博士との意見交換



IWHR 関係者との記念撮影

10) その他

その他 ARRN 活動の一環として、海外からの河川に関する現場視察の支援等も行っています。今後、河川再生に関わる情報提供に加え、人的支援も積極的に展開していきます。

◎韓国異常気象調査研究視察団 現地視察支援 (2007 年 4 月 24 日 東京)



隅田川での親水施設視察の様子

2007 年 4 月 24 日、韓国の異常気象調査研究視察団（大学関係者や研究機関職員）が来日し、ARRN 事務局が国内視察先と調整を行い、東京都建設局河川部の協力を得て現地視察の支援を行いました。

東京都が管轄する隅田川や旧中川の河川再生現場などを訪問し、河川再生に関する意見交換も行いました。

◎韓国 JoongBu 大学 現地視察支援 (2007 年 11 月 6 日 東京)



首都圏外郭放水路にて

2007 年 11 月 6 日、韓国 JOONGBU 大学土木工学科の学生グループが来日し、東京周辺の河川に関する施設を案内しました。併せて、ARRN の活動の概要も紹介しました。

5. ARRN 会員情報

1) ARRN 会員

現在、以下の3組織がARRN会員であり、同時に各国RRNの事務局を担っている。

中国: CRRN (China River Restoration Network)



- 中国水利水電科学研究所 (IWRH)
<http://www.iwhr.com/english.asp>

韓国: KRRN (Korea River Restoration Network)



- 韓国建設技術研究所 (KICT)
<http://www.kict.re.kr/eng/index.asp>

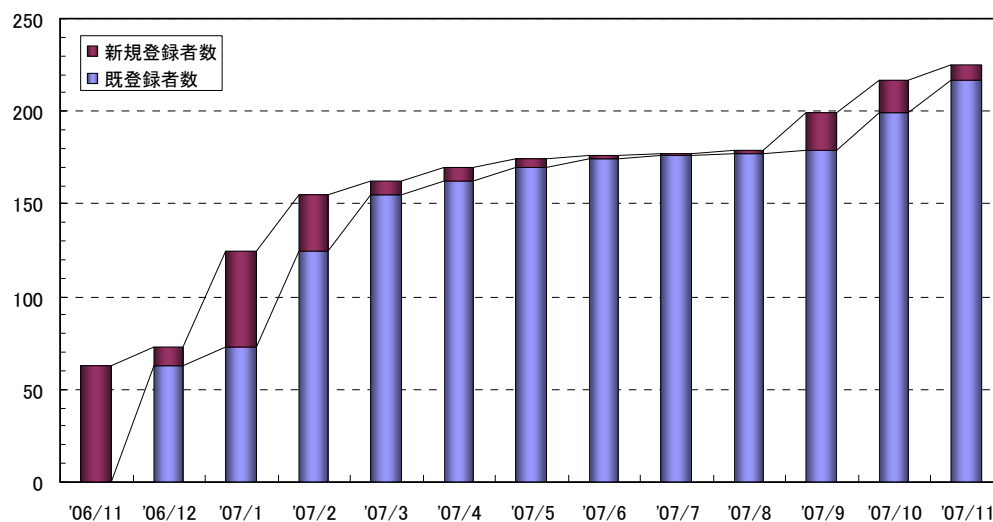
日本: JRRN (Japan River Restoration Network) <http://www.a-rr.net/jp/>



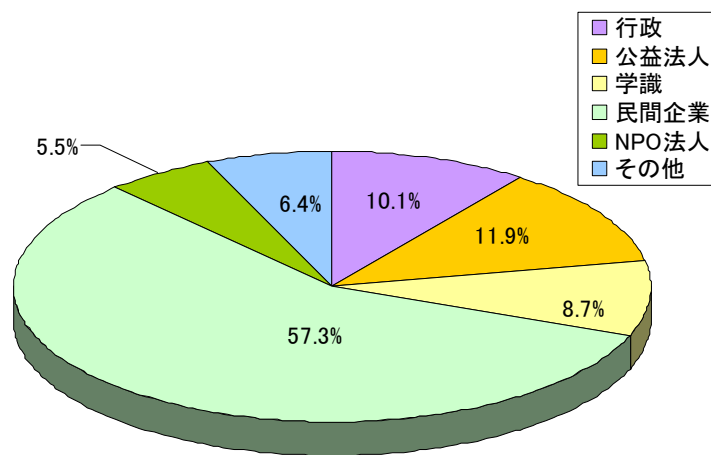
- 財団法人リバーフロント整備センター (RFC)
<http://www.rfc.or.jp/english/top.htm>

2) JRRN 会員

2007 年 11 月 15 日現在の会員状況



JRRN 会員の登録状況



JRRN 会員の内訳

〈参考〉JRRN Newsletter vol.6

JRRN Newsletter vol.6 (1/6)



Volume No.6 (2007 年 11 月)

Japan River Restoration Network News Letter

**発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局**

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@arrn.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

Japan River Restoration Network(日本河川・流域再生ネットワーク；JRRN)が誕生して今月で1年を迎えます。国内での講演会や海外でのPR活動等、徐々にではありますが、活動の幅が広がり出てきた感があります。皆様のご協力の下、引き続き河川

再生に関する情報の循環と人の交流を目指した取り組みを実施してまいりますので、よろしくお願い致します。本ニューズレターでは、ARRN / JRRN の最新の活動内容及び河川再生に関連する情報や取組みなどをご紹介します。

活動報告(1)

講演会「川からの都市再生～台湾・高雄市 愛河」開催報告

2007 年 10 月 11 日 (木)、JRRN と日本大学理工学部との共催で、講演会「川からの都市再生 ～台湾・高雄市の事例 愛河 (Love River)」が東京で開催され、定員を越す大勢の方々にご参加頂き無事終えることができました。

○講演内容：

陳繼志 (元・台湾政府経済部副署長)
「愛河再生の取り組み～展望と実践～」

吳宏謀 (高雄市政府工務局長)
「高雄市における川を通じた都市文化の再生」

○日 時：平成 19 年 10 月 11 日 (木) 10:00～12:00
○会 場：(財) リバーフロント整備センター



講演会の様子 (左：吳 局長、右：陳 前局長)

はじめに、約 30 年以上に渡り高雄市の水環境改善事業に関してこられた陳繼志氏より、現在の愛河が

再生されるまでの歴史と具体的な事業内容について詳しい説明が行われました。

続いて、高雄市工務局長である呉宏謀氏より、愛河を軸とした高雄市発展の歴史、また市民とともに歩む高雄市の街づくりに関するご講演を頂きました。



愛河における高雄市花火大会（2003）

「川は、都市における揺り籠の様なもの」という講師の言葉を象徴するように、水辺を軸として魅力ある街を発展させていくための数々の教訓が詰まったご講演となり、高雄市による取り組みは、川からの都市再生としてアジアを代表する事例の一つに違いないという確信を持ちました。

今回の交流をきっかけに、JRRN として今後も高雄市関係者と連絡を取りあいながら多くの貴重な情報を交換し、河川再生の生きた情報を蓄積していければと思います。

本講演の為に来日頂きました高雄市工務局の皆様にご感謝すると共に、会場にお越し頂いた方々にも御礼を申し上げます。

URL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/314.html>

活動報告(2)

「第3回東南アジア水フォーラム」(マレーシア) 参加報告

2007年10月22日(月)～27日(土)にかけてマレーシア国クアラルンプールを会場に第3回東南アジア水フォーラムが開催されました。本大会は、テーマを「統合水資源管理の推進に向けた具体行動を定めること」とし、東南アジア各国での統合水資源管理の実施状況を把握し知見を共有した上で、12月に大分で開催される「第1回アジア太平洋水サミット(APWS)」に向けた提言を生み出すことが主目的とされています。



開会式の様子 (マ国灌漑排水局長)

この中で、10月23日(火)に開催された専門分科会において、現在JRRNが事務局を担っているアジア河川・流域ネットワーク(AARN)の活動を紹介する機会を得たため、日本の河川環境改善の歩みの紹介と合わせ、講演と意見交換を行ってきました。

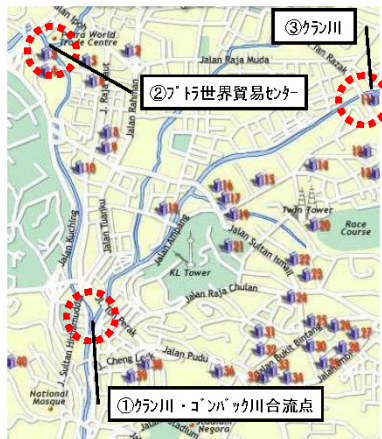
分科会では、今後のアジアにおける河川環境の再生に向けての必要な行動について意見交換が行われ、アジアにおける情報(優れた事例、失敗事例、技術、科学、人材等)の共有の必要性和、そのための仕組み作りが緊急の課題として提言されました。

AARNに対する期待も会場から述べられ、今後より多くの国々に加盟頂き、AARN及びJRRNがアジアの河川再生に寄与するためにも、日本国内やアジアの河川再生に関する情報の蓄積を優先して進めてまいりたいと思います。

寄稿記事

マレーシア国クアラルンプールの河川事情

マレーシアの首都クアラルンプールは、マレー語で「泥が合流する場所」を意味し、市中心部にあるモスク「Masjid Jamek」付近でゴンバック川とクラン川が合流していることがその語源となっている。今回、ゴンバック川とクラン川の数カ所を訪問する機会を得たので、その河川環境について報告する。



クアラルンプール市街地



①クアラルンプールの中心地にあたるクラン川とゴンバック川の合流点。遊歩道が整備され親水整備が行われているが、ほとんど人を見かけない。



①合流点直下流部の様子

クアラルンプール市内の河川の様子としては、環境への配慮という点ではまだ発展途上と言え、ゴンバック川の一部で石積みが見られたが、材料的にも周囲の景観にあまり馴染んでいない印象を持った。



②プト世界貿易センター付近の石積みと釣り人

また、クラン川の多くの区間では、日本橋川と同様に高速道路に覆われ、日本の高度成長期を思い起こさせる光景をあちこちで見かけることができた。



③クラン川と高速道路

特徴的なのは、高速道路下の広い河川敷で、どの程度の頻度で冠水するかの情報を得ることが出来なかったが、何らかの有効利用ができないかと感じた。

部分的に、管理用道路と思われるスロープが堤防を越えて河川内へと連結しており、これらを活用した水辺へのアクセス性向上を図ることなどが考えられるが、雨季には毎日発生する東南アジア特有の強い雨量強度の集中豪雨などを考えると、危機管理の面で様々な課題もあることだろう。



③広い河川内空間

なお、洪水管理に関連し、ゴンバック川と克蘭川が合流点下流部で水位計を発見した。どのような体制で観測しているのかは定かでないが、河川を管理する灌溉排水局により水文観測が行われているようである。



①合流点付近の水位計

最後に、クアラルンプール中心部に最近完成した、世界初の洪水防止用自動車トンネル(全長9.7キロ、通称 SMART : Stormwater Management And Road

Tunnel) を簡単に紹介したい。

この SMART トンネルは2層構造で、上層は自動車トンネル、下層は排水路として機能し、大洪水時には車道部分も排水路として機能する構造になっている。



SMART トンネルのイメージ図
(下記ホームページより引用)

世界初の構造ということで、クアラルンプール市民もこのプロジェクトを知っているようで、このトンネルを訪れた際のタクシードライバーが、SMART トンネルのお陰で市内の洪水頻度が減った話していたのが印象深い。

なお、本事業の詳細は以下ホームページを参照されたい。 → <http://www.smarttunnel.com.my>

河川環境の再生と言う点ではこれから本格的に動き出すであろうマレーシア。同アジア・モンスーン地域にある国として、ARRN を通じた河川再生に関する情報共有を今後益々期待したいと思う。



1998 年完成のペトロナスツインタワー

(記:JRRN 事務局)

会議・イベント等（2007年11月）

（ARRN・JRRN 主催の会議・イベント）

- 「第4回 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 〜街づくりと河川の保全・再生」

都市の発展と水辺の再生に着目し、ARRN の加盟国（日本・中国・韓国）に加え、イギリス、タイにおける河川再生プロジェクトについてご講演を頂くこととなりました。皆様のお越しを心からお待ちしております。

- 日時：平成19年11月30日（金） 13:00-17:00
○会場：全国都市会館 2F 大ホール
○主催：Asian River Restoration Network（財団法人リバーフロント整備センター）

○通訳：日英同時通訳

○参加費：無料

○申込先：以下のホームページをご参照ください。

○定員：200名

<http://www.a-r-r.net/jp/info/letter/information/309.html>

（その他の河川再生に関する主なイベント）

- 第3回 川の日ワークショップ関東大会

日時：平成19年11月10日（土）

会場：東大島文化センター

主催：川の日ワークショップ関東大会実行委員会

<http://arakawa-gakkai.jp/news/20070812-2.html>

- We Love Tamagawa いのちをつなぐ138 「多摩川エコミュージアム・ネットワーク・シンポジウム」

日時：平成19年11月17日（土） 10:00~17:30

会場：東京学芸大学 講義棟

主催：東京学芸大学地域と連携した環境学習推進委員会 他

<http://www.fsifee.u-gakugei.ac.jp/GP/pdf/H19/071117shinpo.pdf>

- 第114回 河川文化を語る会「水と古代文化」

日時：平成19年11月27日（火）

会場：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

主催：（社）日本河川協会

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_n0114.htm

冊子ビデオ等の紹介

- 水辺のミュージアム（2007.9）

・発行：（財）リバーフロント整備センター

・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介していますので、川の本質を知る上で参考になります。

- 多自然型川づくりを越えて（2007.4）

・著者：妹尾優二、吉村伸一、吉川勝秀

・出版社：学芸出版社（2007/04）

・価格：¥3,360（税込）



多自然型工法誕生から15年を経て、生態系への理解や現場の技術者の育成など多くの課題が山積しているなかで、実践を踏まえた多自然型川づくりの基本をまとめ、さらに自然と共生し、都市・地域の軸となる「空間としての川づくり」を提案しています。

事務局からのお知らせ

JRRN が設立してまもなく 1 年を迎えます。JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

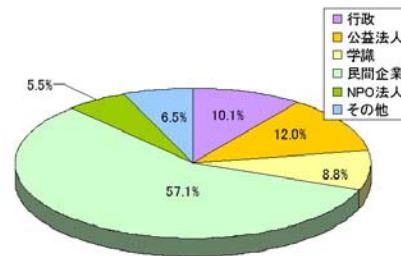
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2007 年 10 月末時点の会員構成

■ JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター(RFC)

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル
技術普及部

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

〈参考〉 JRRN ニュースメール 第 50 号

JRRN ニュースメール 第 50 号 (1/3)

Date: Fri, 09 Nov 2007

From: info@arr-net.net

Subject: [Jrrn-mbr] 【JRRN ニュースメール】 第 50 号

河川・流域に関する最新記事 (2007 年 11 月 6 日～8 日)

発信: JRRN 事務局

当ニュースメールは、複数のメールアドレスを配信先に登録可能です。
 ご希望がございましたら『info@arr-net.net』までご連絡ください。
 また、皆様のこんなニュース報道を集めて欲しい、こんな情報を発信して欲しい等
 の要望も随時受け付けております。
 ご要望がございましたら、『info@arr-net.net』までご連絡下さい。

■事務局からのお知らせ■

- 第 4 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム開催のお知らせ (2007. 11. 30)
 Asian River Restoration Network (ARRN) 主催「第 4 回水辺・流域再生に関わる
 国際フォーラム 街づくりと河川の保全・再生」が 2007 年 11 月 30 日に全国都市
 会館 (東京) にて開催されます。プログラムの詳細や参加申込方法は以下をご覧
 下さい。皆様のご参加をお待ちしております。
 詳しくはこちらから→<http://www.arr-net.net/jp/info/letter/information/309.html>

- 「JRRN Newsletter No. 6 (2007 年 11 月)」が発行されました。
 JRRN Newsletter の第六号では、先月開催しました JRRN 共催イベント「川からの都
 市再生 台湾・高雄市 愛河」の結果報告や、マレーシアの河川事情に関する寄稿
 記事などが紹介されています。
 詳しくはこちらから→<http://www.arr-net.net/jp/info/letter/newsletter/323.html>

- 「水辺のミュージアム」が発行
 JRRN の事務局を務める財団法人リバーフロント整備センターより、「水辺」にかかわ
 る
 資料館・博物館を紹介した冊子「水辺のミュージアム」が発行されました。
 本冊子をご希望の方は以下のホームページをご参照ください。
 URL: <http://www.arr-net.net/jp/news/books/270.html>

■会員からのお知らせ■

- 応用生態工学会東京 地域勉強会 (第 1 回)
 開催日時: 2007 年 11 月 21 日 (水) 19:00～20:30 (約 1 時間半を予定)
 開催場所: (財)ダム水源地環境整備センター第 3 会議室
 地図: <http://www.wec.or.jp/center/map/map.htm>
 参 加 料: 無料
 参加人数: 先着 30 名 ★参加者数の把握のため、下記にお申し込みください。
 申し込み方法: メールにて?参加者氏名、?所属、?連絡先ご連絡ください。
 申し込み締め切り: 2007 年 11 月 16 日 (金)
 申し込み先: 西 浩司 (いであ株式会社) nis18209@ideacon.co.jp
 詳しくはこちらから→ <http://www.arr-net.net/jp/event/04/335.html>

●タイ国および日本の流域水政策（治水政策）に関する国際シンポジウム

参加：無料

定員：約 30 名

主催：日本大学理工学部（水環境システム研究室）、土木研究所（予定）

後援：科学技術振興機構

連絡先：日本大学理工学部 水環境システム研究室 担当：宮本守

Phone：047-469-5228

e-mail：miyamoto@trpt.cst.nihon-u.ac.jp

○会の詳細は近日 J R R N ホームページに掲載いたします。

●ただいま「エコ検定」と「エコユニット登録事業」の受付中!!

○エコ検定（環境社会検定試験）とは…

・こちらから→ <http://www.kentei.org/eco/index.html#ecotoha>

・お問い合わせは 東京商工会議所 検定センター（03-3989-0777）

○エコユニット登録事業とは…

・こちらから→ <http://eco-people.jp/unit/index.html>

■水辺全般■

●「地下水系」保全テーマ 10 日、環境学習講座 18 日、洞窟講演会

西日本新聞 - 2007 年 11 月 8 日

記事全文→

http://www.nishinippon.co.jp/nnp/local/yamaguchi/20071108/20071108_002.shtml

●「豊かな海づくり大会」 10 日開幕 大津港などで多彩に

京都新聞 - 2007 年 11 月 8 日

記事全文→

<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2007110700161&genre=A2&area=S00>

●ゴミ投棄防止に効果アリ

四国放送 - 2007 年 11 月 8 日

記事全文→

<http://www.jrt.co.jp/news/scripts/newscont.asp?NewsId=10225>

●重信川水系整備計画素案まとまる 四国地整

建通新聞 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→

<http://www.kentsu.co.jp/shikoku/news/p03384.html>

●湯崎漁港整備事業の住民説明会 事業への理解求める

紀伊民報 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→

<http://www.agara.co.jp/modules/dailynews/article.php?storyid=134853>

●八郎潟 湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼へ 改正案等...

EIC ネット - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=17633&oversea=0>

■自然再生■

●ニジマス稚魚 6 万尾を放流、屈斜路湖

釧路新聞 - 2007 年 11 月 8 日

記事全文→ <http://www.news-kushiro.jp/news/20071108/200711085.html>

●釧路湿原、霞ヶ浦の自然再生実施計画・全体構想を検討 再生専門家会議が開催へ
EIC ネット - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→ <http://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=17646&oversea=0>

●三河湾に人工干潟 名古屋港しゅんせつ土活用

中日新聞 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→ <http://www.chunichi.co.jp/s/article/2007110790161452.html>

■都市の水辺■

●昭和 30 年代の桜並木を 三峰川で堤防の盛り土工事

長野日報 - 2007 年 11 月 8 日

記事全文→
<http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=8859>

■生態系■

●ブルーギル 1 万匹、在来魚全滅？ 西京の農業用ため池

京都新聞 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→
<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2007110700053&genre=H1&area=K1K>

●ボタンウキクサ大発生 守山・赤野井湾 分布拡大を懸念

京都新聞 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→
<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2007110700064&genre=H1&area=S10>

■水質■

●玉野の市民グループ 竹炭でため池浄化に挑む

山陽新聞 - 2007 年 11 月 8 日

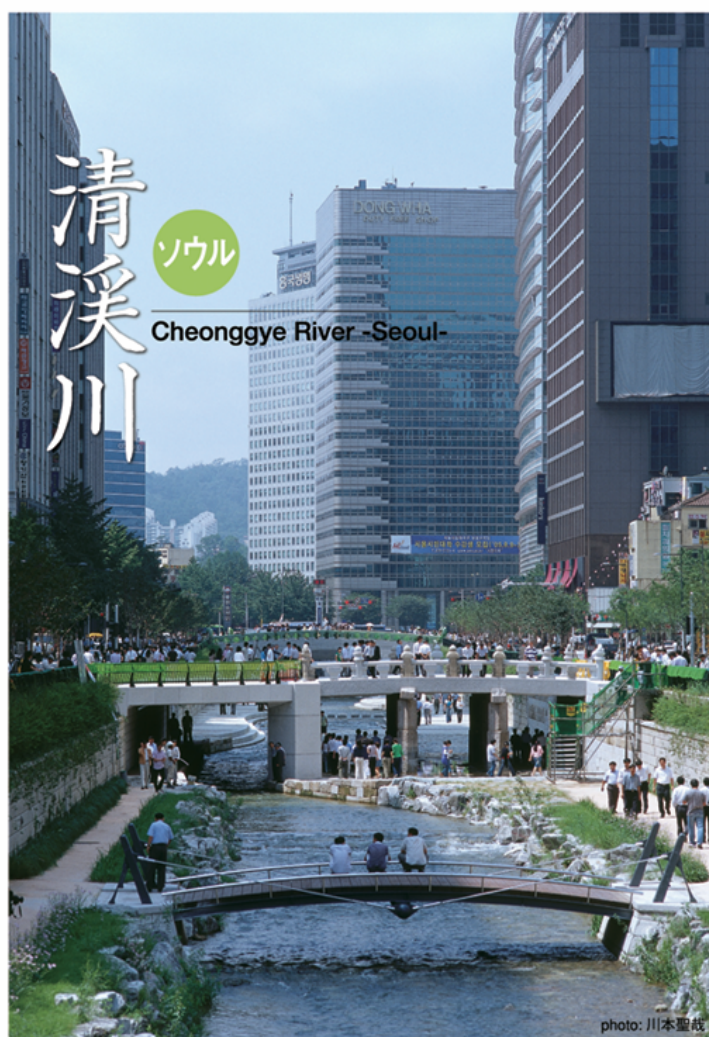
記事全文→
<http://www.sanyo.oni.co.jp/sanyonews/2007/11/08/2007110809193329007.html>

●諏訪湖水質保全計画 最終案まとまる

長野日報 - 2007 年 11 月 6 日

記事全文→
<http://www.nagano-np.co.jp/modules/news/article.php?storyid=8848>

Asian River Restoration Network Secretariat
Japan River Restoration Network Secretariat
Ichibancho FS Bldg. 3rd Floor, 8 Ichibancho, Chiyoda-ku,
Tokyo, 102-0082, JAPAN E-mail: info@a-rr.net
URL : <http://www.a-rr.net/jp/>
「JRRN ニュースメール」の配信が不要の方は、info@a-rr.net までご連絡下さい。



覆蓋道路のオープン化と高架道路の撤去で有名な清溪川は、ソウル特別市の歴史や文化を象徴する都市のシンボルとして再生されました。

The Cheonggye River has been restored as the symbol of the Seoul Metropolitan City's history and culture through the removing of paved roads and overpass above the river.

もう始まっている

アジアのムーブメント



人々の生活に密接な黄浦江は、親水性の向上・修景等によって、都市生活に潤いのある河川に再生されました。

The Huangpu River, closely linked to the people's lives, has been restored to enrich their urban life through the water-friendly improvement and landscaping.



多自然工法が施された川では、水の流れ、水深、底質等、変化に富んだ水際線が蘇り、豊かな自然環境が創出されました。

In a river reconstructed with the Nature Oriented River Works, a rich natural environment has been newly created through the restoration of diversified waterside line consisting of water flow, water depth, and bottom characteristics.



ARRN

Asian River Restoration Network

アジア河川・流域再生ネットワークとは

アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) は、主にアジア地域を中心とした河川流域の環境再生に関する情報交換を支援するネットワークであり、参加者の連携強化による環境再生の促進を目的としています。

河川・流域再生の事例や技術情報の普及、データベースの構築及び地域特性に応じた環境再生ガイドライン作成等の活動を通して環境再生技術の発展に寄与します。

ネットワークの展望

失われた河川機能の回復や環境再生の機運が世界的に高まる中、河川流域に新たな価値が見出されつつあります。

ARRNは主としてアジアを中心に活動の幅を広げるとともに、世界各地のネットワークとの連携を図り、より豊かな環境再生に尽力いたします。

About the Asian River Restoration Network

The Asian River Restoration Network (ARRN) is an Asia-based network supporting the exchange of information relating to environmental restoration of rivers and watersheds, through the promotion of collaboration between participants of the world.

The network aims to contribute to the development of technology for environmental restoration through its activities.

Network Vision

As momentum builds around the world towards recovering the function of rivers and restoring the environment, new values are being discovered for rivers and watersheds.

The ARRN is striving to promote even more substantial environmental restoration practices, through broadening the range of activities undertaken in Asia.





Asian River Restoration Network Secretariat **アジア河川・流域再生ネットワーク 事務局**

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内

〒102-0082 東京都千代田区一番町 8 番地一番町 FS ビル 3 階

TEL: 03-3265-7121 FAX: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

Website: <http://www.a-rr.net/jp/>



ARRN(Asian River Restoration Network)は2006年11月に設立されました。設立後2年間は、日本支部であるJRRN(Japan River Restoration Network)がARRN事務局を担います。現在、財団法人リバーフロント整備センターがJRRN事務局を運営しています。 <http://www.a-rr.net/jp/>

※表紙写真：東京都・野川

2007.12版（ホームページ掲載用）